

健康はキョーリンの願いです。

第59期 中間株主通信 | 平成28年4月1日～平成28年9月30日

*Kyorin* 



キョーリン製薬ホールディングス株式会社

## 私たちキョーリン製薬グループは、新たな発想で「変革」に挑戦し、 長期ビジョン「HOPE100」の実現を目指します。



代表取締役会長  
山下 正弘

代表取締役社長  
穂川 稔

平素よりキョーリン製薬グループに対しまして格別のご理解  
とご支援を賜り、誠に有難うございます。

当社グループの平成28年4月1日から平成28年9月30日  
までの第59期第2四半期(以下「中間期」という)につきまして、  
事業の概況をご報告申し上げます。

当社グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を買き、人々の  
健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念  
の具現化に向け、当社グループの中核企業である杏林製薬  
(株)の創業100周年(平成35年)をみすえた長期ビジョン  
「HOPE100」を策定し、その実現に真摯に取り組んでおります。

当社グループは、医療用医薬品事業とヘルスケア事業を  
複合的に組み合わせ、事業リスクの分散を図り、健全かつ持続  
的に成長する「健康生活応援企業」への進化を目指します。

長期ビジョン「HOPE100」では、会社の持続的な成長と  
中長期的な企業価値の向上に努めており、そのファースト  
ステップである「HOPE100-ステージ1-(平成22年度～  
27年度)」では一定の成果を獲得しました。

しかし、環境が大きく変化していく中で、さらなる成長を  
果たすためには、過去の延長線上ではなく、新たな発想で変革  
に挑戦することが求められます。

今年4月には、新中期経営計画「HOPE100-ステージ2-  
(平成28年度～31年度)」がスタートし、その目標達成に向け  
て、グループ社員が一丸となり全力で取り組んでまいります。

引き続き、なお一層のご支援を賜りますようよろしく  
お願い申し上げます。

## 新中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」がスタートしました。

製薬業界を取り巻く環境は、薬価制度改革の実施等により、今後一層厳しさを増すことが予想されます。当社グループの医療用医薬品事業では、このような様々な環境変化にも対応できるよう持続成長を可能とする医薬事業モデルの進化を図ります。

具体的には、以下の4つの重点戦略、2つの育成戦略を推進し、成果目標である数値目標（連結売上高 年平均成長率3%以上、連結営業利益率15%以上）及び成長投資と株主還元が両立する資本政策の達成に邁進します。

### 新中期経営計画 「HOPE100－ステージ2－（平成28年度～31年度）」

#### ■ 重点戦略

##### ① 創業力の強化

継続的に革新的な新薬を生み出す体制を構築し、ファースト・イン・クラス創業への取り組みを進めます。具体的には、FC領域における新奇な創業ターゲットを見出すとともに、低分子をベースにした既存の創業プラットフォームと、ペプチドや遺伝子治療といった新技術の活用により、ファースト・イン・クラスの新薬を創出します。さらに、オリジナル新薬のグローバルな展開と開発の加速化に向けて、パートナーとの早期の提携を目指します。

##### ② 新薬群比率の向上

新薬群の普及の最大化によって、平成31年度には新薬群比率を50%以上まで向上させます。特許切れを迎える「キプレス」の落ち込みを、新薬群の伸長によって乗り切っていくために、3成分4製品（アレルギー性疾患治療剤「デザレックス」、キノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977X（経口剤）及びV（注射剤）」、過活動膀胱治療剤「KRP-114V」）を「ステージ2」の期間内に上市させるとともに、「フルティフォーム」と併せて製品普及の最大化を目指します。

##### ③ 特色を活かしたジェネリック事業の推進

自社で開発・生産・販売を行っていることに加え、グループ内に杏林製薬（株）という新薬を扱う企業を有するという特性を活かし、オーソライズド・ジェネリック（以下、AG）を積極的に取り扱っていきます。キプレスのAGであるモンテルカスト錠「KM」のジェネリック医薬品市場での高いシェア獲得を目指すとともに、新たなAGの獲得も視野に入れています。

##### ④ ローコスト強化

グループ内最適化によるコスト構造の変革を行います。新薬を扱う杏林製薬（株）能代工場、MSD製品を含め様々な製品を扱うキョーリン製薬グループ工場（株）、ジェネリックを扱うキョーリン リメディオ（株）井波工場、3つの性格の異なる工場の協業による全体最適化を進め、新薬群、先発品群、後発品群の枠を超えて適切な場所で製造を行うことで、工場稼働率の平準化と資産の効率活用を図っていきます。

#### ■ 育成戦略

##### ① 海外進出

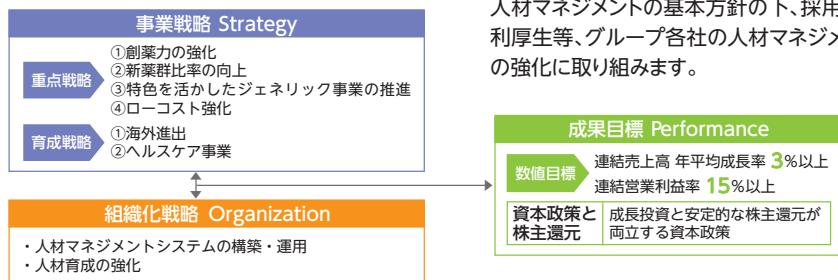
世界の人人々にオリジナル新薬を届けるための取り組みを展開します。具体的には、欧米展開は他社とのパートナーリングにより自社で創出した革新的な新薬のグローバルな展開を推進し、海外売上上の獲得を目指します。また、他社との協業を通じてアジアを中心に将来の直接的進出の礎を築きます。

##### ② ヘルスケア事業

環境衛生事業（環境除菌・洗浄剤「ルピスタ」）を成長させるとともに、既存事業との連携強化を図り、核となる事業の創出に取り組みます。また、次の核となる候補の道筋をつけていきます。

#### ■ 組織化戦略

当社グループは、社員を大切にし、人と組織を活性化することが、事業戦略を遂行し、成果を具現するための最重要課題と位置づけています。「ステージ2」においても、社員にとって「働きがいNo.1企業」の実現を目指し、人材マネジメントの基本方針の下、採用、配属、育成、評価、異動、報酬、福利厚生等、グループ各社の人材マネジメントシステムの再構築と人材育成の強化に取り組みます。



### 当中間期の概況

当中間期における国内医薬品業界は、平成28年4月に実施された薬価改定（業界平均7.8%、杏林製薬6%台）等の薬価制度改革の影響により、市場成長は低調に推移し、厳しい事業環境となりました。また当社グループにおきましては、主力製剤の特許切れへの対応など、これまでにない企業行動が必要な局面を迎えました。ヘルスケア事業を取り巻く環境は、個人消費が徐々に改善し、緩やかな景気の持ち直しが見られたものの先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況下、当社グループは、長期ビジョン「HOPE100」の実現に向けて、本年度よりスタートしました新中期経営計画「HOPE100－ステージ2－（平成28年度～31年度）」の下、医療用医薬品事業では持続成長を可能とする医薬事業モデルの進化に取り組み、ヘルスケア事業\*では核となる事業作りを推進し、成果目標の達成とステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上に努めました。

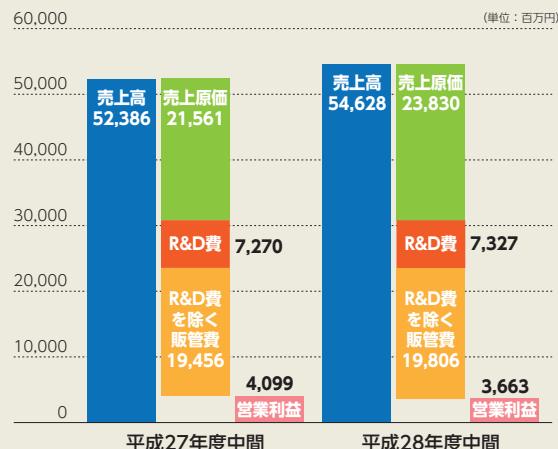
\*スキンケア・環境衛生・一般用医薬品他

この結果、医療用医薬品事業に関わる売上が前年同期を上回る実績で推移したことから、546億28百万円と前年同期比22億41百万円（前年同期比4.3%増）の増収となりました。

利益面では、薬価改定の影響等により原価率が前年同期に対して上昇し、売上総利益は前年同期に対して28百万円減となりました。更に販売費及び一般管理費が前年同期に対して4億07百万円増加（内、研究開発費57百万円増）したため、営業利益は36億63百万円（前年同期比10.6%減）、経常利益は39億21百万円（前年同期比8.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は26億84百万円（前年同期比9.5%減）となりました。

なお当中間配当金につきましては、1株につき20円をお支払いさせていただきます。

### 損益の概要



### セグメント別売上高



### 連結業績予想(通期) (平成28年5月12日公表数値)

売上高	1,200億円 (前年比 0.4%増)
営業利益	145億円 (前年比26.2%減)
経常利益	149億円 (前年比25.5%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	107億円 (前年比21.6%減)

## セグメントの状況

### 医療用医薬品事業

**国内新医薬品** 主力製品では、喘息治療配合剤「フルティフォーム」の売上が前年同期に対して大幅に増加したほか、過活動膀胱治療剤「ウリトス」が前年を上回る実績で推移しました。他方、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」につきましては、特許切れに対応すべく、そのAGを当社子会社であるキョーリン リメディオ(株)より平成28年9月に発売したため売上は減少しました。また潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」、去痰剤「ムコダイン」も前年の売上を下回りました。この結果、売上高は412億72百万円(前年同期比1.2%減)となりました。

杏林製薬(株)では、特定領域(呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科)の医師、医療機関に営業活動を集中するFC(フランチャイズカスターマー)戦略の進化と共に、エアーマネジメントを軸に営業体制の再構築に取り組んでいます。また医療及び製薬産業の環境がより早いスピードで変化中、既存の主力製品の普及最大化に努めるだけでなく、新中期経営計画「HOPE100-ステージ2」の期間内に上市を目指す新製品について、製品特性の早期浸透と発売初動の早期立上げを実現する対応も進めています。

日本における独占販売権を取得しているアレルギー性疾患治療剤「デザレックス錠5mg(一般名:デスロラタジン)」について、同薬剤の製造販売承認を申請していたMSD(株)は、平成28年9月にその製造販売承認を取得いたしました。杏林製薬(株)は、同薬剤について、科研製薬(株)と皮膚科の医師・医療機関を対象とするコ・プロモーション(共同販促)に関する基本覚書を同7月に締結しており、両社で普及の最大化に取り組みます。またMSD(株)が製造販売している定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤「ナゾネックス点鼻液50 $\mu$ g」のコ・プロモーション契約を同9月に同社と締結し、同11月より共同でプロモーションを行っております。当社グループは、積極的なライセンス活動を展開しつつ、重点領域における製品ラインナップの拡充を図り、同領域でのプレゼンス向上に努めてまいります。

**海外新医薬品** 広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン(導出先:米國アラガン社)」のロイヤリティ収入が前年を下回り、売上高は3億43百万円(前年同期比42.3%減)となりました。

**後発(ジェネリック)医薬品** 政府が掲げる後発医薬品に係る数量シェア80%という目標の実現に向け、更なる後発医薬品使用促進策が実施される中、キョーリン リメディオ(株)は、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「モンテルカスト錠10mg・5mg [KM]」(杏林製薬(株)及びMSD(株)が販売している「キプレス」及び「シングレア」のAG)を平成28年9月に新発売いたしました。また自社販売を中心に同剤以外の売上も前年を上回り、売上高

は103億21百万円(前年同期比39.8%増)となりました。

この結果、当セグメントの売上高は519億36百万円(前年同期比4.4%増)となり、営業利益は35億59百万円(前年同期比11.8%減)となりました。

研究開発の状況につきましては、新薬メーカーにとって、未だ数多く存在するアンメットメディカルニーズに応え、世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を継続的に創出し届けることが使命です。杏林製薬(株)では、オリジナル新薬の創製こそが真の成長の原動力であり、新薬事業の強化が当社グループの存在意義を高め、持続成長に結びつくとの認識に基づき、自社創薬及び導入品の開発等を進め、特定領域における開発パイプラインの拡充、新薬開発の早期化に最大限、注力しています。

国内開発の進捗状況としましては、当第2四半期連結累計期間におきましては臨床試験の相移行はありませんでしたが、後期開発品を中心に各開発プロジェクトは着実に進展し、一方で製薬他社との共同開発を進めるなど効率的な研究開発活動に努めました。

自社創薬におきましては、平成27年7月に開設した「わたらせ創薬センター」での活動も軌道に乗り、基礎研究領域(炎症・免疫・感染症)をベースに特定の疾患領域にフォーカスした創薬研究を推進いたしました。

以上の結果、研究開発費は73億27百万円(前年同期比0.8%増)となりました。

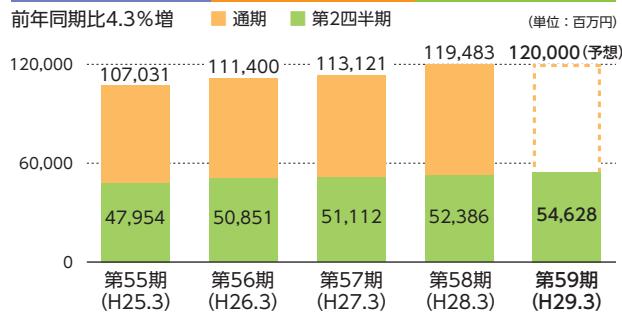
### ヘルスケア事業

景気回復が不透明な中、スキンケア製品は企業間の競争が激化し、売上は前年を下回りました。他方、環境衛生・一般用医薬品他の売上は、主要製品である環境除菌・洗浄剤「ルピスタ」、哺乳びん・乳首・器具等の消毒剤「ミルトン」の伸長により増加しました。

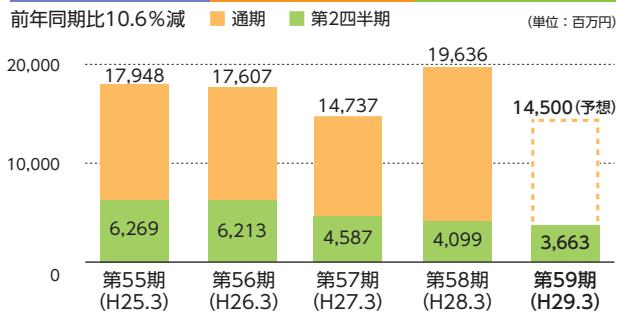
この結果、当セグメントの売上高は26億91百万円(前年同期比1.7%増)となり、営業損失は27百万円(前年同期は営業損失62百万円)となりました。

平成29年3月期第1四半期連結累計期間より、当社グループは報告セグメントの区分を変更しております。変更後の「医療用医薬品事業」の内容は新医薬品、後発医薬品、「ヘルスケア事業」はスキンケア・環境衛生・一般用医薬品他で構成しています。前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

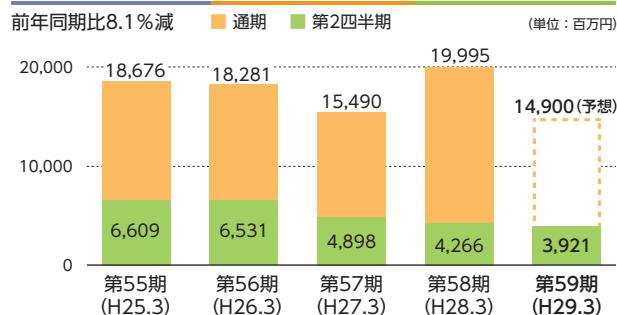
**売上高** 54,628百万円 ▶ 通期予想120,000百万円



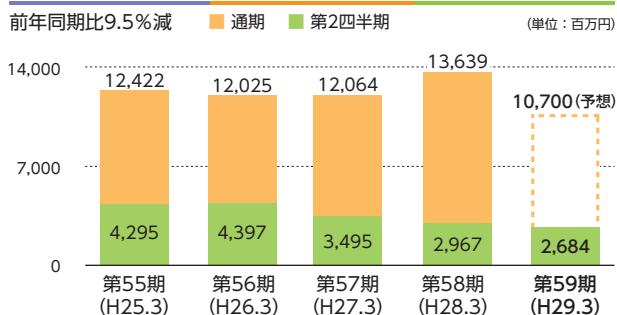
**営業利益** 3,663百万円 ▶ 通期予想14,500百万円



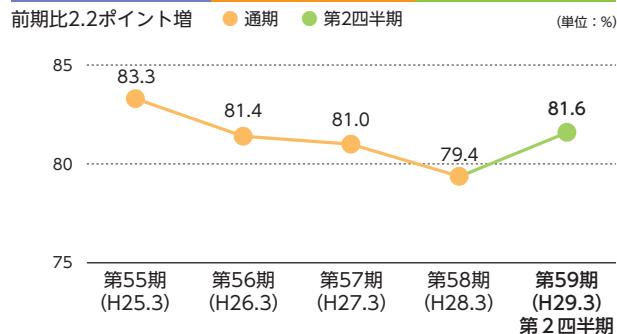
**経常利益** 3,921百万円 ▶ 通期予想14,900百万円



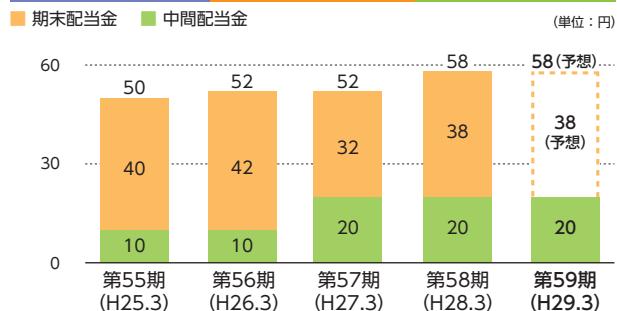
**親会社株主に帰属する  
四半期(当期)純利益** 2,684百万円 ▶ 通期予想10,700百万円



**自己資本比率** 81.6%



**配当金** 20円 ▶ 年間配当金予想58円



**四半期連結貸借対照表(要旨)**

(単位：百万円)

	前期末 平成28年3月31日現在	当第2四半期末 平成28年9月30日現在
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	138,483	<b>130,610</b>
固定資産	59,342	<b>57,675</b>
有形固定資産	22,788	<b>22,588</b>
無形固定資産	1,201	<b>1,061</b>
投資その他の資産	35,353	<b>34,024</b>
資産合計	197,825	<b>188,285</b>
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	28,052	<b>24,123</b>
固定負債	12,723	<b>10,442</b>
負債合計	40,776	<b>34,565</b>
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	149,808	<b>149,170</b>
資本金	700	<b>700</b>
資本剰余金	4,752	<b>4,752</b>
利益剰余金	147,331	<b>147,176</b>
自己株式	△2,975	<b>△3,457</b>
その他の包括利益累計額	7,241	<b>4,548</b>
純資産合計	157,049	<b>153,719</b>
負債純資産合計	197,825	<b>188,285</b>

**四半期連結損益計算書(要旨)**

(単位：百万円)

	前第2四半期 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで	当第2四半期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
売上高	52,386	<b>54,628</b>
売上原価	21,561	<b>23,830</b>
売上総利益	30,825	<b>30,797</b>
販売費及び一般管理費	26,726	<b>27,134</b>
営業利益	4,099	<b>3,663</b>
営業外収益	206	<b>276</b>
営業外費用	39	<b>17</b>
経常利益	4,266	<b>3,921</b>
特別利益	0	<b>0</b>
特別損失	107	<b>88</b>
税金等調整前四半期純利益	4,159	<b>3,833</b>
法人税、住民税及び事業税	936	<b>679</b>
法人税等調整額	255	<b>468</b>
四半期純利益	2,967	<b>2,684</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,967	<b>2,684</b>

**四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)**

(単位：百万円)

	前第2四半期 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで	当第2四半期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	8,954	<b>14,514</b>
投資活動による キャッシュ・フロー	997	<b>△3,895</b>
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,056	<b>△4,114</b>
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△1	<b>△526</b>
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	7,893	<b>5,978</b>
現金及び現金同等物の 期首残高	35,727	<b>45,043</b>
現金及び現金同等物の 四半期末残高	43,621	<b>51,021</b>

## 主要子会社である杏林製薬(株)の主な取扱品目

当社グループの杏林製薬(株)は、魅力のある新薬の創製に努めると共に呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科を重点領域として医療用医薬品事業を中心に展開しています。同社の主要取扱品目は下記のとおりです。



気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤  
**キプレス<sup>®</sup>**



喘息治療配合剤  
**フルティフォーム<sup>®</sup>**



気道粘液調整・粘膜正常化剤  
**ムコタイン<sup>®</sup>**



COPD (慢性閉塞性肺疾患) 治療剤  
**エクリラ<sup>®</sup> ジェヌエア<sup>®</sup>**



潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤  
**ペンタガ<sup>®</sup>**



過活動膀胱治療剤  
**ウリトス<sup>®</sup>**

脳血管障害・気管支喘息改善剤  
**ケタス**

胃炎・胃潰瘍治療剤  
**アプレース**

広範囲抗菌剤  
**バクシダール**

哺乳びん殺菌消毒剤  
**ミルトン**

環境除菌・洗浄剤  
**ルビスタ**

# 主な開発品の動向 | Products under Development

(平成28年11月7日現在)

## Ph (フェーズ) I ~承認 (上市)

製品名・開発コード	薬効	起源	特徴	開発段階
				フェーズⅠ フェーズⅡ フェーズⅢ 申請 承認
KRP-114V	過活動膀胱	米国メルク社	膀胱のβ3受容体に作用することで膀胱弛緩作用を増強し、頻尿の改善が期待される	国内 H27年1月
KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラム陽性菌から陰性菌及び非定型菌までの幅広い抗菌スペクトラムを示す</li> <li>・嫌気性菌に対しても薬剤と比較し強力な抗菌活性を有する</li> <li>・優れた組織移行性により、高い臨床効果が期待される</li> <li>・高い安全性(血糖値異常、光線過敏症、消化器症状他)が期待される</li> </ul>	国内 申請準備中
KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社		国内 H28年3月
KRP-209	耳鳴	ドイツメルツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	国内 H27年8月
Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	国内 H27年7月 Ph I / II

### 【導出品】

KRP-203	移植片対宿主病 (GvHD)	自社	S1P受容体アゴニスト。免疫調整剤	海外 ノバルティス
-	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	海外 ※前臨床(米国プリストル・マイヤーズスクイブ社)

### 【参考】

デザレックス (デスロラタジン)	アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症)に伴うそう痒	第二世代ヒスタミンH1受容体拮抗薬(杏林製薬(株)が日本国内における独占販売権を取得)	国内 MSD(株)
------------------	--	---	--------------

### 開発プロセスの概要

**フェーズⅠ (第Ⅰ相試験)**  
同意を得た少数の健康人志願者を対象に、安全性のテストを行う臨床試験

**フェーズⅡ (第Ⅱ相試験)**  
同意を得た少数の患者さんを対象に、有効で安全な投薬量や投薬方法などを確認する臨床試験

**フェーズⅢ (第Ⅲ相試験)**  
同意を得た多数の患者さんを対象に、既存薬などと比較して新薬の有効性及び安全性をチェックする臨床試験

**申請**  
有効性・安全性が確認された新薬の製造販売承認を厚生労働省に申請

会社概要

商号	キョーリン製薬ホールディングス株式会社 (英文: KYORIN Holdings, Inc.)
事業内容	創薬ビジネス・医薬事業等を営む子会社を中心とするグループ全体の経営戦略機能を担う持株会社
本社所在地	〒101-8311 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
設立	昭和33年(1958年)
資本金	7億円
従業員	118名(連結2,427名)

株式の状況

発行可能株式総数	297,000,000株
発行済株式の総数	74,721,579株 (自己株式226,049株を除く)
当中間期末株主数	6,200名

役員

取締役及び監査役	山 下 正 弘	やま した まさ ひろ
代表取締役会長	穂川 稔	ほがわ みのる
代表取締役社長	宮下 三朝	みや した みつとみ
取締役	松本 春	まつもと はる
専務取締役	荻原 豊	おぎはら ゆたか
常務取締役	荻原 茂	おぎはら しげる
取締役	梶野 国雄	かじの くに お
取締役	阿久津 賢二	あくつ けん じ
取締役(社外)	尾崎 仙次	お ざき せん じ
取締役(社外)	鹿内 德行	しか ない のり たく
取締役(社外)	高橋 卓	たか した せい ゆう
常勤監査役	宮下 征佑	みや した ひろ あき
常勤監査役	羽磨 寛晃	は ま ひろ かん けい
監査役(社外)	小幡 雅二	お ばた まさ じ
監査役(社外)	小西 勇二	こ にし ゆう じ
監査役(社外)	山 隆 央	やま たか たく

執行役員	伊藤 洋	い と う よう
上席執行役員	高橋 敬	たか へし けい
上席執行役員	大野 道郎	おお の た みち ろう
執行役員	大野 道郎	おお の た みち ろう

## キョーリン製薬グループ各社の概要(連結子会社)

### 杏林製薬株式会社

<http://www.kyorin-pharm.co.jp/>

キョーリン製薬グループにおける中核企業として、創薬ビジネスに注力し、革新的新薬を創製することで新薬メーカーとしての使命を果たし、かつ早期にビジネス展開していくことで医療用医薬品事業の競争力強化を図っています。

#### 主な事業内容

創薬研究 | 研究開発 |  
製造 | 販売



わたらせ創薬センター



能代工場

### キョーリン メディカルサプライ株式会社

<http://www.kyorin-ms.co.jp/>

医薬品に関連する広告の企画制作等を中心に、多岐にわたるコミュニケーションビジネスを手掛けると共に、環境衛生事業に積極的に取り組み、健康生活応援企業を目指すグループの一員として社会に貢献していきます。

#### 主な事業内容

環境衛生 | 販売促進 |  
広告物の企画制作



### キョーリン製薬グループ工場株式会社

<http://www.kyorin-fc.co.jp/>

MSD(株)から取得した医薬品生産に関する資産をもとに、医療用医薬品の製造に関する事業を行っています。今後も高品質な製品の安定的提供、製造技術の向上とコスト効率化を目指していきます。

#### 主な事業内容

製造 | 販売



### キョーリン リメディオ株式会社

<http://www.kyorin-rmd.co.jp/>

「信頼されるジェネリック医薬品企業」を目指し、品質保証・安定供給・情報提供を徹底し、患者さんが安心して服用できる特色のある後発医薬品の提供に取り組んでいます。

#### 主な事業内容

研究開発 |  
製造 | 販売



### ドクタープログラム株式会社

<http://www.drprogram.co.jp/>

新規美容成分の研究や成分浸透技術の開発で培ってきた製薬発想のナノカプセル技術を製品づくりの基盤としています。今後もこれまで市場に存在しなかった新しい製品を創造し、女性の美と健康に貢献していきます。

#### 主な事業内容

スキンケア製品の開発・販売



2016年モンドセレクション「最高賞」受賞

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 6月に開催  
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人 (特別口座管理機関) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

(お問合せ先) 〒168-8507  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
みずほ証券株式会社  
本店及び全国各支店

公告掲載紙 日本経済新聞

## (ご注意)

1. 口座管理機関(証券会社等)の口座に株式をお預けの株主さまの場合  
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、お取引の口座管理機関(証券会社等)が窓口となります。  
株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式をお持ちの株主さまの場合  
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、みずほ信託銀行証券代行部(株主メモ参照)にお問合せ願います。
3. 同封の「配当金計算書」は、確定申告の際の参考資料としてご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主さまにつきましては、お取引の証券会社にご確認ください。
4. 未受領の配当金につきましては、左記お取扱店(株主メモ参照)及びみずほ銀行本店・全国各支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内 <http://www.kyorin-gr.co.jp/>



株主の皆さまにタイムリーな情報をお届けいたしておりますのでぜひご覧ください。

### ホームページサイト

キョーリン製薬グループについて	トップメッセージ、企業理念・ビジョン、コーポレートガバナンス、会社概要、組織図 等
事業内容	新医薬品、ジェネリック医薬品、一般用医薬品他、ヘルスケア事業 等
株主・投資家情報	トップメッセージ、研究開発パイプライン、財務業績、IRライブラリ、アニュアルレポート、株式情報 等
グループ経営戦略、CSR活動、お問い合わせ 等	

## 株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 4569

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問合せ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com

## キョーリン製薬ホールディングス株式会社

〒101-8311  
東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地  
TEL:03-3525-4700(代)



PROJECT-  
With the Earth  
この冊子の印刷・製本に係るCO<sub>2</sub>は  
PROJECT-With the Earth を  
通じてオフセット(相殺)しています。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

